

理事長あいさつ

就任にあたって

世界の多くの国々で、森林は木材などの資源供給や環境緩和などを通じて、人間活動に大きな影響を与えています。これまで世界各地の森林地帯を訪ねる機会がありましたが、特に西アフリカや東南アジアでは、森林の減少と劣化が進み、洪水や乾燥害などの気象災害の増加がみられました。一方、日本では急斜面にも植林された山をみることで、気象災害に強い国土となっています。

森林はその川下の農業や居住環境、さらには海的环境にとっても重要です。日本国土の67%は森林で覆われ、そのうち41%は人工林ですが、戦後の復興を願って植林された森林も多くあります。現在の森林には植林者の期待や願いが詰まっていると言つてよいでしょう。しかしその機能の発揮には長い年月がかかり、植林した者が森林からの恩恵を受けられないことが多くあります。そのような育林活動は日本の誇るべき文化のひとつです。その恩恵にあずかる私たちは、森林に託された願いを引き継ぐ必要があると思っています。

しかし、現在、日本の森林は担い手の問題や、病虫害被害、気候変動の影響など、様々な問題も抱えています。一層の研究活動を通じて、先人達の夢や願いを実現させるとともに、現在の私たちの願いを込めた森林の育成も進める必要があります。

ます。

森林総合研究所は今年、創立以来110年を迎えますが、森林総研の果たすべき役割として、科学技術、行政施策、社会活動、国際協力への貢献を掲げてきました。さらに今年度から、研究成果の拡大を進める国立研究開発法人の指定を受け、森林保険センターを新たに加えて、本所、林木育種センター、森林整備センター等で構成されることとなりました。

この体制によって、国民の期待と先人達の願いを日本の森林分野で具現化するとともに、森林・林業・林産業、また生態系保全や気候変動、災害等の対応において世界で果たすべき役割を果たし、世界をリードする機関となるように努めてまいりたいと思っています。

今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



理事長 沢田 治雄